



店内では新鮮野菜や野菜などを豊富に取り扱っています

兄弟屋(株)
観光拠点センターにかほっと内
(にかほ市象潟町字大塩越36-1)
時間: 10:00~16:00
※土日、祝日は9:00から営業
定休日: 第3水曜日
問合せ: ☎43-4200



応募方法 ハガキ、FAX、QR (申し込みフォーム)
記入事項 発行号、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、『広報にかほ』への意見・感想等を記入
応募期限 4月23日(金)
応募先 〒018-0192
にかほ市象潟町字浜ノ田1
にかほ市役所
「広報にかほプレゼント係」
FAX 0184-62-9013 QRコード

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

第18回 兄弟屋(株)

新しい可能性と未来が拓く春がやってきました。新年度一発目は、観光拠点センターにかほっとに店舗を構える兄弟屋(株)さんを紹介し、今の2代目・高橋裕一さんのご両親と共に青森県弘前市出身。昭和42年からりんご専門の移動販売を始め、秋田県内から南は遊佐町まで広く足を延ばしていました。果物屋を開業後、「りんご屋」の愛称で親しまれ、ねむの丘の直売所から現在のにかほっとに移り、まもなく6年目を迎えます。日頃から店舗販売のほか、幼稚園や学校給食への卸し、また裕一さんの息子である俊弘さんは出前商店街でも精力的に活動しています。

裕一さんは、「今も続くコロナ禍は相当な痛手です。そんな中でも、味と新鮮さにこだわってスーパーに負けない価格と工夫を凝らした売り方でお待ちしています」と語ってくれました。今回、兄弟屋(株)さんから、日向夏から生まれた品種みかん「はるか」を5名様にプレゼント！新鮮果物の選び方やおいしい食べ方などもお教えします。ぜひご用命ください。

※仕入れ時期で別の果物になる場合もあります。季節商品のため、あらかじめご了承ください。



日向夏からの変わり種「はるか」5kgを5名様にプレゼント!

千客万来 にかほ本舗

広報で伝える市内店舗の魅力、商工会加盟店の紹介と人気商品の読者プレゼントコーナーへ

東京オリンピック・パラリンピック ホストタウン情報

2020年9月にリベリア共和国大使館とホストタウンパートナーシップ協定を締結し、10月にリベリア共和国のホストタウンに登録されました。リベリアの選手や国民の応援・交流を通じ、SDGsについてできることを考え行動しましょう。

問合せ: スポーツ振興課 ☎33-8855

仁賀保高等学校リベリア応援動画公開中

ホストタウン専用サイト「世界はもっとひとつになれる Light up HOST TOWN Project」では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に出場する選手たちを応援する取り組みを実施しています。本市では、リベリアの選手に向けた応援メッセージを仁賀保高校が発信しました。



応援動画はこちら



「ガンバレリベリア!」

ホストタウンサポーターの声

継続した交流のために

私は、リベリアとの継続した交流に貢献したいと思い、ホストタウンサポーターに申し込みました。リベリアを含む世界的情勢に関心をもち、生きる環境や人種、性別に関わらず対等なコミュニケーションを取ることが継続した交流のカギであると考えています。

より多くの市民の方が事業に参加することによって他者への理解が広まり、にかほ市がこれからの時代に必要多様性を尊重し合う地域になると思っています。



ホストタウンサポーター 齋藤 明日子 さん (平沢・学生)

異文化交流は楽しい!

昨年、地歴公民科の授業でアフリカ大陸やオリ・パラ学習をしたところ、生徒も興味津々だったようで、8月には仁賀保高校で国旗オンライン講座を開催しました。

その後、むらさぎ荘でスティーブンスさんと交流したり、11月に仁賀保高校単独でリベリア講座を開催するうち、異文化交流が楽しくなってサポーターに申し込みました。

皆さん、リベリアとの交流は楽しいですよ!一緒に盛り上げましょう。



ホストタウンサポーター 石澤 宏基 さん (高等学校教諭)

ホストタウンサポーター募集中

異文化理解、オリ・パラスポーツに関連した学習会を企画してみんなで学びましょう。また、コロナ禍でもできる交流を一緒に考えましょう。(オンラインスポーツ交流、オリ・パラスポーツ体験など)

交流事業通訳ボランティア募集中

オンライン交流などの際に英語通訳をするボランティアを募集しています。



※ホストタウンサポーター、交流事業通訳ボランティアの応募、質問はこちらへ。

スポーツ振興課
☎33-8855 / FAX 33-8856
✉supotusinko@city.nikaho.lg.jp



鳥海山・飛島ジオパークリレーコラム ~日本海と大地がつくる水と命の循環~ vol.76

『日本ジオパークの「再認定」を受けました』



宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 教授 宮原 育子 氏

鳥海山・飛島ジオパークは、2016年9月に日本ジオパーク委員会(JGC)の認定を受けて以来、早いもので4年に一度の再認定審査の年を迎えました。再認定のための現地調査は、2020年10月にJGCから派遣された2人の調査員によって行われました。この調査結果をもとに、本年2021年2月5日に開催された第41回日本ジオパーク委員会での審査が行われ、その結果、無事「再認定」を受けることができました。

鳥海山・飛島ジオパークが評価された点として、新規認定から4年間で、地域住民や多様な関係者の参加が着実に進んで、教育やガイドの活動が活発なこと、ジオサイトの環境保全の取組みが進ん

でいること、認定商品制度がつくられるなど、他のジオパークのお手本となる優れた取り組みが多くあることなどが挙げられました。また、鳥海山・飛島ジオパークは、秋田県と山形県の3市1町が一体となり、県境を越えた広域の活動が活発に進められている点でも注目されています。

次回の再認定は、2024年です。鳥海山と日本海の恵みを受ける3市1町が、ジオパーク活動によってこれまで以上に美しい環境を保全しながら、地域の歴史文化を後世につなげる活動や、地域経済の活性化を目指していくことを期待しています。



▲2月5日に行われた再認定審査結果記者発表の様子